



平塚さん

「(ミニ)シアターを救え!」と署名や支援の輪が広がっています。小さな映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」も緊急事態宣言を受けて休館に。3月末、代表、平塚千穂子さんから『えんとこの歌』の初日ですが予約はゼロ。でも、ぜひ観てほしい」とメールが。休館の直前、行つきました。

東京の「シネマ・チュプキ・タバタ」

東京都北区、JR田端駅から歩いて5分。日本で唯一のユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」があります。

音声ガイド・字幕

代表の平塚さんらが自分で音声ガイドと字幕をつくり、目や耳の不自由な人が映画を「観る」ことができます。振動を体で感じられる「抱っこスピーカー」の貸し出しもあります。

20席ほどですが、車いすスペースや、人の大勢いる場所が苦手な人のための完全防音室もあります。

新型コロナウイルス感染防止として換気をしっかりおこない、入場料は一人ひとりに手指のアルコール消毒を。「それでも積極的な宣伝は控えているので、1日に数人

が広がっています。小さな映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」も緊急事態宣言を受けて休館に。3月末、代表、平塚千穂子さんから『えんとこの歌』の初日ですが予約はゼロ。でも、ぜひ観てほしい」とメールが。休館の直前、行つきました。

〔都光子〕

「(ミニ)シアターを救え!」と署名や支援の輪が広がっています。小さな映画館「シネマ・チュプキ・タバタ」も緊急事態宣言を受けて休館に。3月末、代表、平塚千穂子さんから『えんとこの歌』の初日ですが予約はゼロ。でも、ぜひ観てほしい」とメールが。休館の直前、行つきました。

救え! ミニシアター

コロナ休業 存続の危機

程度に落ち込んでいます」と平塚さん。「でも、今回だけはぜひ観てほしかったんです」

介助者との日々

その映画とはドキュメンタリー映画「えんとこの歌」です。上映初日の4月2日。観客は5人。

上映後、監督の伊勢真一さんがあいさつにたち、映画にかけた思いを熱く語りました。

2001年から目の不自由な人たちとともにボランティア団体をたちあげて、映画を楽しめる環境づくりに力を注いできました。念願かなって募金が集まり、ユニバーサル映画館が完成。今年4年目に入りました。

上映作品は多岐にわたります。「この世界の片隅に」「主戦場」「万引き家族」の話題作も。入场料は一般1500円。介助者は無料です。

排せつシーンの撮影は時間がかかります。歯を磨くなどの口腔ケアもゆっくり丁寧に2時間。

「えんとこの歌」の一場面から

上映後、語る伊勢さん

命を考える ドキュメンタリーで発信



支援の署名 なくてはならない映画館



「えんとこの歌」の一場面から



「えんとこの歌」の一場面から

一ヒートをストローでゆっ

くり、おいしそうに飲む

表情が印象的です。

55歳から詠み始めた短

うな声をひろい、つくつ

ていきます。相模原市の

障害者施設での事件を受

けて「見知りたる男の刃

物を振り上げて 追り来

るをわが夢に見つ」と歌

いました。

〔都光子〕

「テレビも新聞もSNSも新型コロナウイルスばかり。その状況をしつかり受けとめながら、か

つ『淡淡』自分らしい

日々を生きることが今、

大切なんじゃないか」と

伊勢さん。「こういうドキ

ュメンタリー映画は、ミ

ニシアターや自主上映で届いていく。ここは、なく

てはならない存在です」

平塚さんは、さまざま

な障害者と知り合い、ともに考えるきっかけを

と、音声ガイドをつくりました。緊急事態宣言を受け、5月15日まで臨時休館をよぎなくされました。「大きな打撃です。誰も排除しない映画館を、これからもみなさんと一緒に続けていきたい」(シネマ・チュプキ・タバタ <http://chupki.jpn.org/>)

ホウレンソウ

③ニンニクに少し色がついたホウレンソウを加え、強火に

◆材料(2人分)
ホウレンソウ 200g
オリーブ油 大さじ1
乾燥牛蒡葉

父と私の孫が文通

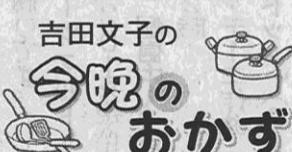
ほつと

なってきた」と言います。母は毎日メールを返してくれます。安否確認です。

90歳を超えた父がもうメールを書くのがめんどうになりました。

90歳を超えた父がもうメールを書くのがめんどうになります。

吉田文子の 今晚の おかず



吉田文子の
今晚の
おかず

